

口腔顎顔面矯正学分野 特別講演のお知らせ

『顎関節症と外科的矯正治療 におけるチームアプローチ』

日 時：2023年 7月 6日(木) 16:30～18:00

場 所：歯学部3階 講堂

演 者：谷本 幸太郎 先生

広島大学大学院医系科学研究科

歯科矯正学 教授

広島大学歯学部長

中・四国矯正歯科学会会長



講演抄録

矯正歯科治療で遭遇する顎変形症に起因する不正咬合の治療は、大別してカムフラージュ治療と外科的矯正治療があります。一般的には不正咬合の程度や患者の希望など様々な観点から比較検討した上でどちらを選択するかが決まります。また、外科的矯正治療が選択される場合も上下顎いずれあるいは両方に対して、どのような術式の手術が行われるかによって矯正歯科治療の計画も変わります。また、ストレス社会を背景に、顎関節に何らかの症状を抱える方は依然増加傾向にあります。顎関節症の病態に応じた治療体系が整理されつつありますが、矯正歯科治療などのように、必ずしも顎関節症の治療を目的としない咬合再構成を行う場合における対応は未だ検討の余地があります。とりわけ、顎変形症治療では、顎関節症が病態に深く関与していることがあり、慎重な対応が必要となります。近年では不正咬合の治療も複雑化しており、そうした中で大学病院は、関係医療機関との連携を強めつつ、矯正歯科医療の研究や臨床の中核として機能することが求められております。このような疾患に対しては、集学的なチームアプローチを行うことにより最良の結果が得られるよう、連携強化に努めております。本講演では、顎変形症を伴う不正咬合の治療に焦点を当て、典型的な症例の治療計画の立案や当病院におけるチーム医療の概要や、下顎頭吸収を伴う顎変形症症例について、当科で進めてきた研究を紹介しながら、現時点での取り組みをご紹介します。

*本講演は、大学院医学研究科、医科栄養学研究科、口腔科学研究科の大学院特別講義ならびに、クラスターコアセミナー(骨・筋とCaクラスター)を兼ねています。

連絡先：口腔顎顔面矯正学分野 田中 栄二

(088-633-7357 内線5291) etanaka@tokushima-u.ac.jp